

世界史における I C U の奇跡
北原和夫
2002.9.11 大学礼拝：平和の鐘奉献式

本日は、秋学期最初の大学礼拝です。いつもですと、秋学期からの新入生を歓迎するための大学礼拝ですが、本日はそれに加えて、この大学礼拝堂に「平和の鐘」を奉献する礼拝です。

この「平和の鐘」設置の運動は、すでに 10 年近く前から始められたものです。しばらくして、募金の目標額達成の見通しが立ち、設置計画を立てることができて、発注を決定したのは、昨年（2001 年）の 3 月のことでした。施工業者のカリヨネ社の予定としては、「平和の鐘」が学内に届くのが本年（2002 年）2 月末ということでしたので、今年の春学期の間は、学内に「平和の鐘」を展示して皆さんに見て頂き、この夏休みのうちに工事をして、2002 年九月の最初の大学礼拝を奉献の礼拝とする、ということに決めました。それが、本日もです。つまり、「平和の鐘」奉献の礼拝を本日も決めたのは、実に昨年の三月のことでした。

ところが、皆さんお気づきのことと思いますが、奉献の礼拝を予定しておりました本日は、昨年ニューヨークで起こった同時多発テロ事件のちょうど周年の日であります。

ですから、「平和の鐘」を奉献するこの日は、神様が意図して選ばれた日である、と思わざるを得ないのです。と申しますのは、このように奉献の礼拝を行うことにしていた日が、同時多発テロの一周年の日と奇しくも一致したこともさることながら、これからお話しますように、もともとこの「平和の鐘」設置の運動が始まった当初は、キャンパスに本物の「鐘」がなく、テープ録音が鳴っているという状況を何とか改善したい、本物の鐘が鳴り響けば、キャンパスライフにおける精神性により影響を与えるであろう、という思いがありました。

ところが、この鐘の設置のための募金運動を計画しているときに、何人かの方から、今から 50 年以上も前の 1949 年、本学の創立のための募金運動の先頭に立った当時の日本銀行総裁であった一万田尚登氏が「国際基督教大学が平和を世界に告げる鐘であって欲しい」と日頃から語っておられたらしい、ということを知りました。そこで、日銀におられたことがある山本和先生に調べていただいたところ、「一万田尚登伝記・追悼録」に以下のような一万田氏の発言が収録されてあることが分かりました。「戦後の日本が民主主義で行くことになった以上、国際的にも愛される人物を養成する新しい大学を、ということで、基督教大学の設立に力を入れた。世界中の人が軍事力をなくし、平和を推進するために集まる一種の聖地が三鷹にある、ということにしたかった。国際基督教

大学が一応開講に運びになったときに、何かお礼の気持ちを、と言ってきたことがあった。そこで、新しいチャーチができるだろうから、鐘をおいてほしい。その音色の世界中が耳を傾ける。人々はそれぞれ何かを、今日一日の反省なりを考えるであろう。」

この一万田氏の発言を読み直してみますと、I C U ソングの一番の中にある「gathered here upon thy campus, eager youths from all the world」、そして二番で「To the service of mankind」と結んでいるところを思い起こします。世界の人々に奉仕するために、熱心な若者たちが世界中から集まってくるところ、それが国際基督教大学である、という歌の内容です。一万田氏が述べておられることと一致しているではありませんか。この I C U ソングは Ray and Elizabeth Baber が作詞作曲し、二代目の学長鶴飼先生が日本語訳をされたものです。

この一万田氏の発言および I C U ソングに込められた I C U 創立者たちの幻が、昨年の 9 月 11 日の事件を契機に、現実として改めて明確に認識されることになりました。昨年の同時多発テロ事件の翌日、9 月 12 日の大学礼拝は、九月入学生と O Y R 学生を歓迎するための礼拝として予定されていたものですが、その日は、テロ事件の犠牲者の追悼し平和を祈るために、本館の宗教音楽センターに溢れんばかりの教職員学生が手を取り合って目に涙して共に祈りあったのでした。世界中から集まった若者たちが、I C U での大学生活の始まりのときに、テロ事件の犠牲者を追悼し平和を求めて祈りを共にしたのでした。

そして、本日、テロ事件の一周年記念の日に、「平和の鐘」を奉献することになりました。私が、本日述べたいことは、世界の歴史の中で、国際基督教大学は、二度とおこりえないいくつかの奇跡的な歴史のコインシデンス（偶然的一致）を経て、その使命を明確にしてきた、ということです。

創立時の歴史をもう少し詳しく見てみましょう。先ほど述べました一万田氏が心血を注いだ募金運動がどのような時代背景で行われたかを見ますと、驚くべきことがわかります。まず I C U は、一般には、戦後アメリカのお金で創立された大学だ、と思われていますが、実は、当時日本の国民的運動として、基督教的人道主義、平和主義に基づき平和のために働く人材を作る大学として創設されたのです。当時、1949 年の半年間に当時のお金で一億五千万円が集まったのです。今で言えば、何百億円というお金でしょう。しかも、驚くべきことに、拠金した多くの人々はキリスト教信者でもなく、無名の日本人だったのです。その募金運動の先頭に立ったのが、当時日銀総裁だった一万田尚登氏ですが、実は一万田氏もクリスチャンではなかったのです。

当時日本がおかれていた国際的、社会的、政治的背景を考えますと、募金目標額が短期間に達成された 1949 年という年は、国際基督教大学設立のための募金運動が可能な最後で唯一のチャンスだったのではないかと、思われるので

す。1945 年には敗戦を迎え、社会の混乱状態から少しずつ落ち着きを取り戻したときでした。戦後の解放感から、キリスト教が民主主義、平和主義との関連で受け入れられる雰囲気があったと思います。そして、アメリカも民主化政策を進めているときであり、アメリカと民主主義と基督教の三つが一体のものとして、人々には自然に受け入れられていたものと思われます。実際、当時の朝日新聞を見ますと、1949 年 11 月 4 日に湯川秀樹のノーベル賞受賞決定、その前後に、トロイヤー副学長の就任、ハケット氏の着任など国際基督教大学の設置の動きが新聞に出ています。1950 年 2 月 15 日には、湯浅学長が「原爆の償いとしてのアメリカでの募金運動」を紹介しています。6 月 1 日には、元駐日大使で米国 ICU 財団のグルー氏の「日本はキリスト教的民主主義で進むべきだ」と言う発言がトップ面に出ています。その直後、6 月 26 日朝鮮動乱が始まりますと、ICU に関する記事はまったく出てこなくなり、翌年 1951 年暮れに開学予定の発表、翌 1952 年 4 月 29 日開学の記事が出ているだけで、紙面をにぎわしているのは、多くの大学における反レッドパージ闘争の記事でした。

つまり、朝鮮動乱の勃発によって、東西対立が深刻化し、アメリカ占領政策も変化してきます。そうしますと、多くの日本人、特に民主主義、平和主義を掲げる人々のアメリカを見る目、そして基督教を見る目が変わっていったのではないかと思います。だから、募金運動が進められた 1949 年という年は、まさにキリスト教主義大学創立のための国民的募金運動が可能な last chance であったと思います。

神様は、世界の歴史の中に、短いコマのような時間帯を選び取って、人々を動かし、平和を作るための大学を三鷹の地に建てられたのです。これは、神様が、適切な時と場所と人を選んで、そこで、そのとき、その場で、そこに居合わせた人々によってしか、なし得ないことが起こったとき、それを「奇跡」と呼んでよいと思います。

それからしばらく時がたちました。一万田氏の「三鷹の地に鐘をおいて世界に平和を告げたい」の夢は実現していませんでした。そのうち、いつか人々はそのことをも忘れておりました。そして、古いテープレコーダーの鐘の音が、ずっと鳴っておりました。

1990 年代の前半に学長をされた大口先生は、本当の鐘の音がキャンパスに鳴り響くようにしたい、とお考えになり、Friends of ICU に「鐘設置基金」を作られました。それから少しずつ基金がたまってきました。一万田氏のお働きのことも思い起こされるようになりました。そして、一万田氏の働きを記念し、また、創立に関わった多くの人々の祈りを覚えて、「平和の鐘」と名づけることにしたのです。

そして、本日、「平和の鐘」と名づけられた鐘の奉献の日が、世界を揺り動

かした「同時多発テロ」の一周年記念日と一致したのです。

ICU が創立されるための募金運動が、世界の歴史の中の短い一コマの中で国民的運動として多額の醸金を集めて本学の創立の財政的基盤を達成してから 50 年を経た本日、再び神様は、世界の歴史の中に、本日を選んで ICU の創立の意味を再確認させてくださったのです。

ところが、もう一つ、お話したいことがあります。一万田氏のお孫である一万田健城氏と井上素彦氏が、それぞれ、たまたま ICU のウェブページを見て「平和の鐘」募金運動のことを知り、醸金してくださったのです。健城氏、素彦氏のお話では、一万田氏は日頃から、世界平和の大切さをご家庭でお話になっておられたそうです。そこで、一万田祈念「平和の鐘」という言葉を ICU のウェブページで見つけ、大変感動されたそうです。

皆さん、神様は、世界の歴史の中に ICU の使命をきちんと位置づけられておられます。そこで学ぶ皆さんも、神はかけがえのない一人一人としてその計画の中に位置づけておられます。その意味で、ICU は奇跡の大学なのです。「平和の鐘」の奉献に当たって、皆さんと共にこのことを確認したいと思います。

祈ります。在天の主よ、あなたが世界の歴史の中に、時と場所と人々を選び、この大学を立てて下さったことを思います。世界中から若者たちがやってきて学んでおります。どうか、あなたと人々に仕えていくための知恵と勇気を、そしてあなたにある信仰をお与えください。本日奉献いたします「平和の鐘」が、あなたのご計画の中で生かされますように祈ります。ここに集まりました学生、教職員、来賓の方々と共に、この祈りを主のみなによってお捧げもうしあげます。